第４学年　総合的な学習の時間　学習指導案

山形市立千歳小学校　教諭　阿部　大輔

１．単元名　「千歳地域の特色とは何かを考えよう　～馬見ヶ崎川と里芋～」

２．単元目標

○　千歳地域を流れる馬見ヶ崎川、里芋について知り、タブレットの発表ツールにまとめ、発表することができる。（知識及び技能）

○　馬見ヶ崎川の水生生物調査、水質調査、里芋の栽培などを体験することで、地域をみる視点をもち、これからも千歳地域が特色ある活動を続けていくための方策を考えたり、考えたことをタブレットの発表ツールにまとめて伝えたりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）

○　千歳地域の特色について積極的に調べ、専門家から聞いたことや調べたことをまとめ、学んだことを広めようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

（１）教材観

本単元では、本校が所在する千歳地域の特色を学ぶ学習を行う。子供たちに自分が暮らしている地域に目を向けさせ、地域にある自然や人の営みを知ることで地域に対する愛着や誇りがもてるようにしたい。

千歳地域では、県内最長の川である最上川に通ずる馬見ヶ崎川が流れている。馬見ヶ崎川には、江戸時代に山形藩主鳥居忠政の命により、氾濫を避け、人々の生活でより水を活用するために、流れを変えられた歴史がある。馬見ヶ崎川は、２０２３年に「世界潅漑施設遺産」に指定・登録された山形五堰に深く関係している。農業用水として使われ、洪水で氾濫することが多く、それにより人々を困らせた。その影響もあり、馬見ヶ崎川付近の土地は水分を多く含んだ性質がある。水分の多い土は里芋の栽培に適しており、千歳地域は昔から里芋農家が多く存在した。里芋は連作栽培ができないため、近年ではトマトやキュウリを栽培する農家が多くなったが、一方で千歳地域で栽培された里芋は、山形市で行われている「日本一の芋煮フェスティバル」の芋煮の材料として使われている。

このように、山形が誇る郷土料理「芋煮」の材料の一つである里芋を育てるだけでなく、馬見ヶ崎川について知ることで、千歳地域に愛着や誇りをもたせたいと考える。

小学校第４学年の社会科で学習する「水」「ごみ」を関連させることで、環境保全の大切さにも気付けるようにしていきたい。

（２）児童観

本学級の児童は、３年生の時に総合的な学習の時間で大豆の栽培を行い、豆についての探究的な学習を経験している。今年度の学習について話し合った際に、大豆の収穫まで至らなかったことを残念に感じている子供が多くいた。今回は枝豆の栽培を行い、育てた豆を食べることで生産者の視点をもてるようにする。作物を収穫し、口にするまでには大きな苦労や生産者の思い、努力などがあることを知ることで、物事を多角的に捉えられるようになることを期待する。

また、コロナ禍の影響もあり、本校の子供たちの千歳地域に対する愛着や誇りが希薄になっているという実態が学校アンケートの結果からわかった。地域の祭りや催し物が減少し、地域コミュニティーによる関係は減少した。地域のコミュニティーセンターと連携したり、地域の農家の人、地域コーディネーターの人など地域で誇りや愛着をもって行動している人と交流したりすることで、子供たちの地域に対する関心の高ま

りを期待したい。

（３）指導観

本単元の指導に当たっては、自然環境、産業について学習することで、地域に対する愛着や誇りをもち、自分ができることを考えられるようにする。

まず、３年時に取り組んだ豆の栽培をきっかけに千歳地域の特産物である里芋を栽培し、地域で栽培される作物についての関心を高める。

次に、社会科の「水はどこから」の学習をきっかけに千歳地域を流れる馬見ヶ崎川について学ぶ。山形県環境科学センター、美しい山形・最上川フォーラムから専門家を招き、実際に川に入り、水質調査と水生生物調査を行うことで千歳地域を流れる川について五感を通して知る。蛇口を捻って出てくる水道水ではなく、感覚的に川の水を知ることは子供たちにとって大きな学びとなり、単元後半で課題を自分事として捉え、探究する場面では大切な要素となる。

また、社会科の「ごみのしょりと利用」の学習と関連させることで、地域の川の環境保全についても考えさせることができる。河原や川にごみが落ちていることに気付くことで、きれいな川が当たり前のものではなく、ごみを拾ったり、きれいにするために努力したりしている人がいることに気付く。

山形市農政課の人からは、千歳地域の土壌、馬見ヶ崎川の歴史等について話をしていただき、千歳地域の土壌について知り、地域の土地の特色、農作物について理解させる。

里芋農家の人との関わりからは、地域の特産品を作る人への憧れをもてるようにしたいと考える。鈴木さんは、地域の交通指導員を務めていていつも子供たちのことを見守ってくれていること。佐藤さんは子供たちに大人になってから山形のおいしい芋煮を県外の人に広めてと願っていること。鈴木さんは、地域コーディーネーターとして、学校にいろいろな人を講師として紹介していること。このような熱い思いをもった地域の人と交流することで地域に対する思いを高めたいと考える。

他地域の小学生との交流も行い、他の地域にも特色があること、地域の人々の思いや願いがあることを知り、子供たちの視野を広げさせたい。

（４）ＥＳＤとの関連

・本学習で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

責任性…地域の特色ある活動を続けていくために自分には何ができるのかを考え、それに向かって変容・変革することにより構築される。

相互性…地域にはその土地ならではの特色があり、それに応じた産業が行われている。それを続けていくためには人口、環境などの変化に応じて大人も子供も意識したり、行動したりすることで構築される。

・本学習で育てたいＥＳＤの資質・能力

批判的に考える力（クリティカルシンキング）…千歳地域にある川や自然、農作物は当たり前にあるものではなく、様々な人の努力や思いによって存在している。当たり前にあるものに対して、「なぜ」「どうして」という視点をもって考える。

進んで参加する態度…自分が暮らしている地域について関心をもち、自分にできることを考え、行動する。

・本学習で変容を促すＥＳＤの価値観

世代間の公正…これまで地域の特色ある活動を続けてくるために努力し、行動してきた人たちの思いを知り、未来の千歳地域にもそれを残していくために、地域に対する愛着や誇りをもって行動することが

大切である。

自然環境・生態系の保全の尊重…環境保全を考え、落ちているごみを拾ったり、環境をきれいにしようとしたりして、生態系サービスうを意識して行動することは大切である。

・達成が期待されるＳＤＧｓ

１１　住みよいまちづくり

１４　海の豊かさを守る

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①里芋を育てることに適した千歳地域の土壌には、馬見ヶ崎川が関係していることがわかっている。 ②学んだり、考えたりしたことをタブレットの発表ツールにまとめている。	①馬見ヶ崎川の調査や里芋の栽培などを体験することで地域課題について考え、これからの千歳地域の特色について考えている。 ②学んだことや考えたことをタブレットの発表ツールにまとめ、伝えている。	①千歳地域の特色について積極的に調べてまとめ、学んだことを広めようとしている。 ②進んで友達と地域の特色について考え、自分にできることをやろうとしている。

５．単元の指導計画（全５０時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
１・２	○総合的な学習の時間で学びたいことを話し合う。 ・３年生の時大豆を育てられなかった。―Ａ ・ＳＤＧｓについて勉強してみたい。―Ｂ	・子供たちの言葉から課題を設定するために、事前に調べさせたり、声がけして思いを高めておく。	
３～10	○枝豆を育てる。（学校の畑）―Ａ ・土を準備することが大事だよ。 ・雑草を抜くなどの管理が大切なんだなあ。 →収穫、調理して育てた枝豆を食べる。	・昨年度の大豆の栽培の失敗を糧に枝豆を育て、収穫し、おいしく食べるという成功体験ができるようにする。	
11～16	千歳地域で作られている食べ物は何だろう（千歳地域の特色は何だろう）		
	○千歳地域で作られている里芋を育てる。（地域の農家の畑） ・千歳地域では、里芋やネギが作られているんだ。 ・千歳地域には、里芋農家がたくさんいたんだ。 →収穫まで地域の農家の方と連携して取り組む。 （鈴木さん、佐藤さん、鈴木さん） 千歳コミュニティーセンターで行われる文化祭で自分たちが作った里芋を入れた芋煮を地域の方と一緒に無料で振る舞う。（任意での参加）	・枝豆の栽培から千歳地域で作られている作物に目を向けられるようにする。 ・地域の人と一緒に芋煮を作り、振る舞うことで山形の郷土料理に愛着や誇りをもてるようにする。	
17～22	社会科（東京書籍「新しい社会４」）「２．住みよいくらしをつくる」「１水はどこから」の学習で、自分たちにとって身近な千歳地域を流れる馬見ヶ崎川についての関心を高める。		
	千歳地域を流れる馬見ヶ崎川について知ろう（千歳地域の特色は何だろう）		
	○馬見ヶ崎川の水質調査、水生生物調査をする。 ―Ｂ	・山形県環境科学センター、美しい山形・最上川フォーラムの人か	

	・馬見ヶ崎川はきれいなんだなあ。 〇体験活動や調べ学習をして学んだことをタブレットの発表ツールを使ってまとめる。 〇友達とまとめたスライドを見合う。	ら話を聞き、一緒に活動することで馬見ヶ崎川について知ることができるようにする。 ・友達と見合う活動を通して、より具体的に相手に伝わるようにまとめる。	
23	１～６年生の班で地域巡りウォークラリーをした際に馬見ヶ崎川周辺にはごみがあることに気付く。		
	〇地域巡りウォークラリーで馬見ヶ崎川についてわかったことを話し合う。 ・きれいな馬見ヶ崎川であってほしい。	・水質調査、水生生物調査では気付けなかったごみの存在について知り、清掃活動に繋げる。	
24・25	〇海に近い川ではごみなどがないのかを海に近い学校の人から聞く。（酒田市の小学校４年生とのオンライン交流） ・海に近い河原でも内陸から流れ着くごみがあるんだなあ。 ・馬見ヶ崎川のごみは海まで流れているんだなあ。	・他校の子供と交流することで、山形の環境について考えられるようにする。 ・きれいな海で海水浴ができるのは、清掃活動をしている人がいることに気付けるようにする。	
26・27	〇山形県天童市の４年生と地域のことについて学んでいることを意見交流する。 ・天童の小学生も自分たちが住んでいる地域の環境について考えて、地域の環境を続けるためにできることをしているんだなあ。	・同じ年代の子供が地域の課題を知り、地域の環境を続けていくためにできることを行動していることに気付き、自分の学びにいかせるようにする。	
28～31	〇尚絅大学中俣先生、宮城学院女子大学森先生からポイ捨て心理学について学ぶ。 ・誰の目もつかないところにポイ捨てが多いんだなあ。	・ポイ捨ての環境への影響やポイ捨てをする人の心理を学ぶことできれいな自分にできることを考えることができるようにする。	
32～36	〇河原の清掃活動を行う。 ・河原でバーベキューをした人が網やライターなどを捨てている。 ・馬見ヶ崎川がきれに保たれているのは清掃活動をしている人がいるからだ。	・美しい山形クリーンアップ・キャンペーンに参加し、美しい山形・最上川フォーラムの人と一緒に清掃活動を行うことで環境保全への関心を高められるようにする。	
37～41	〇山形市農政課の人から千歳地域の土壌、馬見ヶ崎川の歴史等について話を聞く。 ・千歳地域の土壌は水分が多いんだなあ。 ・キュウリやトマト、里芋の栽培に適した土壌なんだなあ。 ・馬見ヶ崎川は、農家の人が作物を栽培しやすくするため何度も場所を変えた歴史があるんだなあ。 ・馬見ヶ崎川は氾濫が多い川だったんだな。	・昔の千歳地域は里芋の栽培が盛んだったが、連作障害などの影響で今はトマトやキュウリを作る農家が多いことを児童が知ることができるようにする。 ・馬見ヶ崎川は、人と深く関わりがあることに気付けるようにする。	△ウ①
42～45	千歳地域の特色を広めよう		
	〇自分達が学んだことを伝えよう。 酒田市、天童市の小学校とオンライン交流し、自分たちの学びを交流する。	・学んだことを発表ツールにまとめ、相手に伝わるものになっているのかを吟味したり、修正したり	△ア① △イ②

	・それぞれの市にはよさがあり、特産品を作る人、環境を守るために努力する人がいるんだなあ。	しながら学びを深め、表現力を高められるようにする。	
46～50	○自分にできることを考え、行動しよう。 ・学んだことを異学年の友達に伝えたいなあ。 ・落ちているごみを見付けたら、進んで拾いたい。 ・ポスターを作って、千歳地域で育てられている里芋や馬見ヶ崎川についてもっと多くの人に知ってもらいたいなあ。	・一人一人の子供の思いを大切にし、自分ができることを行動化できるように助言し、支援する。	△ア② △イ① △ウ②

６．成果と課題

成果

①川と里芋を扱ったことによってうまれた当たり前に対する意識の変容

１～６年生の縦割り班で行った全校地域巡りウォークラリーの時に、水生生物調査で学んだことをもとに川底の小石を裏返してヒゲナガカワトビケラを見つけた子。河原にごみが落ちていることに気付いてごみを拾って持ってきた子。縦割り班の掃除時、異学年の友達に「水を出しっぱなしにしないで。水は限りある資源なんだから。」と言う子。それまで地域を流れる川についてほとんど関心がなかった子供が生活の中で使われる水や自然について考えるようになり、身の周りに落ちているごみを意識し、ごみを拾う意識をもつようになった。社会科見学、校外学習、登下校時にもそれまで意識していなかった子が、捨てられているごみに気付くようになった。

②他校とのオンライン交流によって、一人一人の子供が自分事として考えることができた。

酒田市立浜中小学校４年生との交流では、千歳地域を流れる馬見ヶ崎川の水が最上川を流れ、日本海に流れる際に内陸のごみが流れ着いていることを知った。海に近い小学校では、川沿い、海岸沿いで清掃活動を行っていることも知った。子供たちが普段気付くことができなかった海のごみ、川のごみに気付いたことで、馬見ヶ崎川をきれいにする必要感をもつことができた。同い年の子供から環境保全についての取り組みや自分たちに何ができるのかを考えて行動している姿を見せてもらったことで、刺激され、行動化に繋げることができた。

③地域の人との関りからうまれる憧れと郷土愛

今回の学習を通して、子供たちは多くの専門家、地域の人と関わった。

里芋農家の鈴木さんは以前から交通指導員をしてくれていたが、ほとんど交流がなく子供とは距離があった。しかし、今回の学習をした後は登下校であった時に挨拶をしたり、学習のまとめを話す時に自慢げに話したりする姿を見ることができた。佐藤さんには、インドに山形の里芋を広める活動をしに行ったり、畑をインドの神様であるガネーシャなどの畑アートをしたりしていることを話してもらった。これにより、自分たちにも何かできるかもしれないと思いを高ぶらせる子もいた。何名かの子供がコミュニティーセンターで地域の人と一緒に芋煮を振る舞ったことで、地域の人とともに山形の芋煮を広める取り組みができ、地域の催し物に参画することができた。子供と関わりたいと強く思っている地域の人は多い。しかし、時間や目的の調整などの課題があり、実現することはなかなか難しい。単元構想案をもとに打ち合わせを行い、事前に調整することで学校も地域もお互いにとってよい取り組みを実現することができた。

課題

① 地域の人や行政などの外部講師の学校に求めていることと教師が子供に何を学ばせ、どんな資質能力を身に付けさせたいのかの調整。

教師が単元計画に合った外部講師に関わってもらい、学習を進めることは子供たちの学びを充実させることができる。今回の実践からは、交流場面を複数回もたせることに課題を感じた。教師の思いとしては、何度も講師の人と接することで子供に憧れる心を育んだり、学習に対する思いを高めたりする効果を期待したが、謝礼や授業時数、行事等との調整が必要であると感じた。

②PDCA のサイクルを繰り返し行うことによる子供たちの資質・能力の向上

調べる、体験する、まとめる、発表する、見合うなどの活動を経験していくうちに子供たちの資質・能力が高まった。単元を進める中で調べる時間やまとめる時間には個人差がある。教師が計画的に目的を明確にさせながら学習を進めることが大事である。毎時間の子供の姿を見取り、次の授業に活かすことが課題である。

最後に

児童の学びを保護者に向けて話した際に、子供たちから保護者に向けて「千歳地域の特色や良さは何だと思いますか。」という質問をした。ほとんどの保護者は「千歳地域の人は温かい。」「のんびりとした人間関係が良い。」と答えた。千歳地域に住んでいる人達の人柄の良さはとても良いことである。しかし、回答のほとんどが抽象的なぼんやりとしたものであった。地域に対する愛着や誇りを抱かせたいと考えた時に、自然や伝統芸能、食文化などの具体的な言葉が出てきてほしいと考えた。

「千歳地域に住んでいるが、自分の住んでいるところに対しての良さや特色について今まで考えたことがなかった。」「環境保全や地域活性化のために自分にも何かできるのではないかと考えた。」といった保護者の声もあった。このことから、大人でも、地域の良さや当たり前の日常に価値を見い出す機会はあまりないのではないかということに私自身が気付き、学びがあった。

保護者からは、「豆や里芋が嫌いで全く食べなかった子が今回の学習をして、自分から進んで食べるようになった姿に驚いた。」「保護者も地域の良さを知ることができ、千歳地域の良さを再確認することができた。来年も作物を育てて食べる活動をして欲しい。」と言われた。子供たちと取り組んできた学習ではあったが、子供たちの変容した姿から親や家族にも地域に対する意識に影響を与えることができた。

小学４年

山形市立千歳小学校　阿部大輔

現在の学年終了時に目指す姿

　自分の考えをもち、友達と関わりながら、考えを広げたり、協力したりすることで、何事にも挑戦し、進んで自分を高めることができる

総合的な学習の時間「豆リベンジャーズ」

　昨年度大豆を育てたがうまく収穫まで至らなかった経験を受け、今年度は枝豆の育て方を調べ、育て、収穫、調理し、食べるまで行う。

農作物を食べるまでには、たくさんの苦労があるんだなあ。

千歳地域で作られているものを育ててみたいなあ。

市の農政課の方との交流

地域の里芋農家さんとの交流

千歳地域には馬見ヶ崎川が流れていて、水分を多く含んだ土壌は里芋やトマトなどの農作物の栽培に適しているんだなあ。

社会科「水はどこから」

　飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを学ぶ。

生活の中で水を使えるのは当たり前ではなく、いろんな人の努力や苦労があるからなのだなあ。

総合的な学習の時間

千歳地域の特色を考えよう―馬見ヶ崎川と里芋―

　馬見ヶ崎川についての調査や里芋の栽培等を通して、地域に対する関心をもつことで地域に対する愛着や誇りがもつ。

〇主に養いたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング…千歳地域にある川や自然、農作物は当たり前にあるものではなく、様々な人の努力や思いによって続けられている。当たり前にあるものに対して、「なぜ」「どうして」という視点をもって考える。

進んで参加する態度…自分が暮らしている地域について関心をもち、自分にできることを考え、行動する。

〇主に育てたい ESD の価値観

世代間の公正…これまで地域の特色を続けてくるために努力し、行動してきた人たちの思いを知り、未来の千歳地域にも特色を続けていくために地域に対する愛着や誇りをもって行動する。

自然環境・生態系の保全の尊重…生態系サービスがないと豊かに生きていくことはできない。

酒田市浜中小学校、天童市立寺津小学校とのオンライン交流

体育科表現「伝えたい！『ごんぎつね』の思い！」

　物語文「ごんぎつね」に対するイメージをしっかりもち、友達と関わりながら全身で表現することで、動きを高めることができるようにする。

国語科「ごんぎつね」（光村図書）

　友達との関わりから物語文に対するイメージの違いに気付かせ、叙述をもとにごんの気持ちの変化や、ごんと兵十の気持ちのすれ違いを読み味わうことができるようにする。

伝統を引き継ぐ思いや誇りをもって伝統工芸を続けている人がいるんだなあ。

友達と関わりながら、お互いを認め合いながら学ぶことで自分を高めることができるなあ。

社会科「特色ある地いきと人々のくらし」

　山形市の山形鋳物について学ぶ。

海や川の環境保全に取り組む４年生から学んだことをもとに、自分達には何ができるかなあ。